

倶多楽

1 概況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状態です。

2 地震および微動の発生状況

倶多楽付近を震源とする地震は少ない状態が続いています。火山性微動は観測されませんでした。

表1 倶多楽 地震・微動の月回数（上登別）

2005～2006年	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
地震回数	1	0	1	0	1	2	3	1	3	2	2	-
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-

※上登別観測点は2006年10月1日以降、機器障害のため欠測につき地震回数グラフは掲載していません。

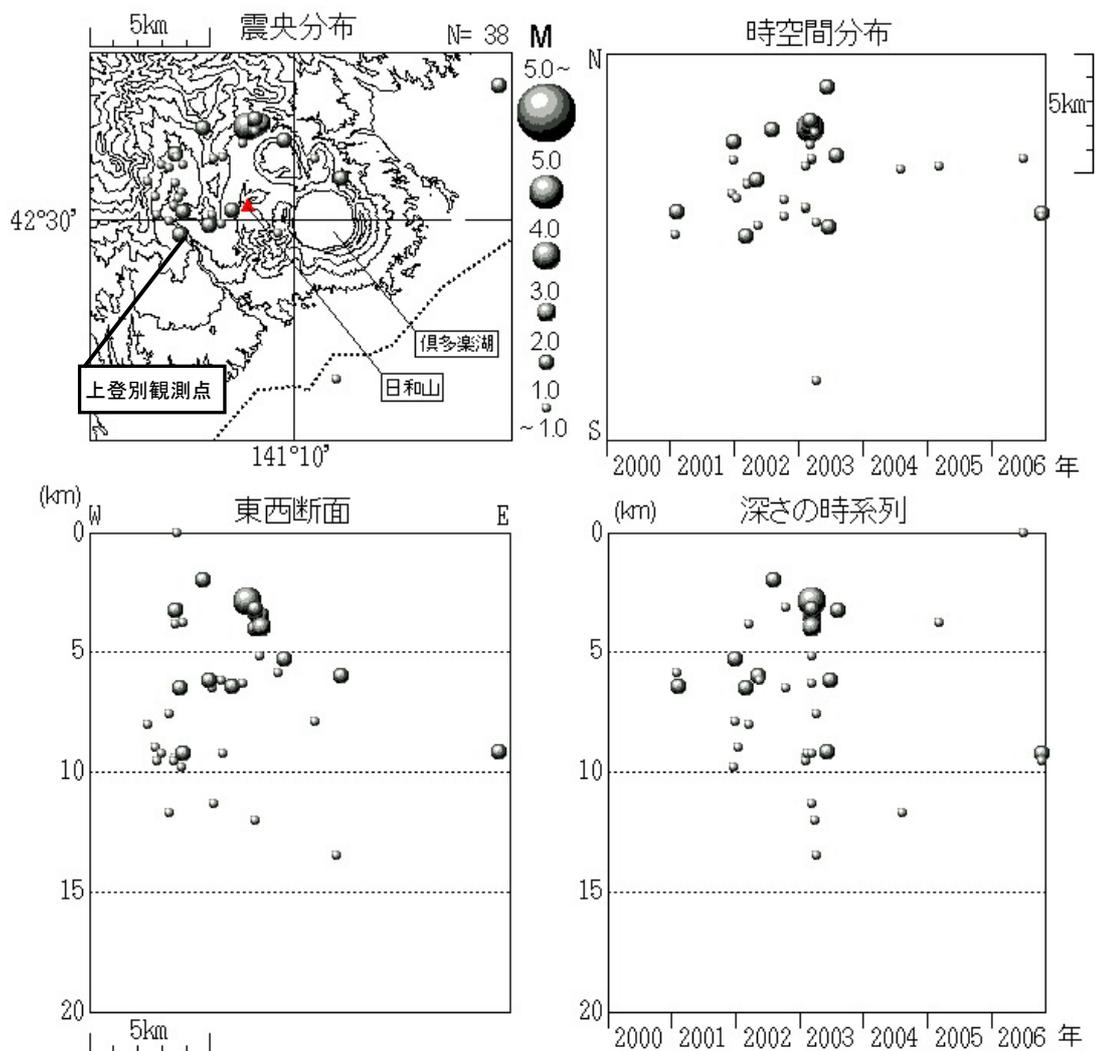


図1 倶多楽 広域ネットによる倶多楽周辺の地震活動(2000年1月1日～2006年10月31日)

マグニチュード(M)は地震の規模を表します。資料中のMは暫定値で、後日変更することがあります。

本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000(地図画像)』を複製しています。(承認番号 平17総複、第650号)

3 火口の状況

27日に室蘭地方気象台が実施した現地調査では、日和山、大湯沼、地獄谷等の熱活動の状況はこれまでと比べて大きな変化はありませんでした。

【日和山】

山頂部の噴気孔ではこれまでと同様に、大きな噴気音を伴って白色の噴気を勢いよく噴出していました。噴気温度は約120℃で前回（2005年11月約110℃）と比べて大きな変化はありませんでした。

【地獄谷】

地獄谷では弱い噴気活動や温泉の湧出は続いており、その状況に変化は認められませんでした。地獄谷のほぼ中央に位置する東方噴気孔群でも活発な熱水の湧出が続いていました。

【大湯沼】

大湯沼および奥湯沼では全面湯溜まりの状態が続いており、周辺の地熱域の状況に変化はなく、熱水の湧出や弱い噴気活動が続いていました。

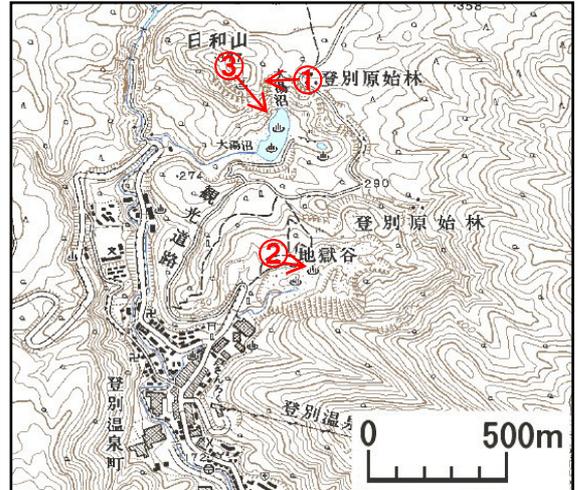


図2 倶多楽 周辺図



図3 倶多楽 日和山山頂火口
(周辺図①から10月27日撮影)



図4 倶多楽 地獄谷東方噴気孔群
(周辺図②から10月27日撮影)



図5 倶多楽 大湯沼及び奥湯沼 (周辺図③から10月27日撮影)